# 日ソ共同宣言調印70周年記念式典 鳩山会館にて開催

# 鳩山由紀夫理事長が挨拶

## 友愛理念の実践・世界の仲間入りを果たす



10月19日（月）鳩山会館に於いて「日ソ共同宣言 調印70周年記念式典第一部が開催された。鳩山由紀夫理事長は、鳩山一郎先生の像に献花の後、会の発起人代表として挨拶した。（日・ロ関係主催５団体・挨拶全文等詳細は友愛ＨＰに紹介）




友愛理念を今こそと講演　鳩山由紀夫理事長（右）
縁の地鳩山会館には関係者一堂が集い偉業を讃えた（左）

本日ここ鳩山会館において、日ソ共同宣言署名70周年という大きな歴史の節目を、皆さまとともに迎えることができますことを、深い感慨をもって、大変うれしく思います。この鳩山会館は、私の祖父、鳩山一郎が暮らし、思索し、そして戦後日本の進むべき道を真剣に考え続けた場所であります。その館において、日ソ共同宣言を振り返ることには、重い意味があると感じております。

日ソ共同宣言は、１９５６年10月19日、モスクワにおいて署名されました。この宣言は、日本とソ連との間の戦争状態を終結させ、外交関係を回復させた歴史的合意でありました。そしてそれは、戦後日本が国際社会の中に本格的に復帰していくうえでの、きわめて重要な一歩となりました。日本はこの年、国際連合への加盟も果たし、敗戦後の長い制約の時代を越えて、新たな歩みを進めることとなりました。

この共同宣言の意義は、いくつかの主要な点に整理することができます。

第一に、日ソ両国の間に残されていた戦争状態を終結させたことであります。戦争は戦闘の停止だけで終わるのではなく、法的にも政治的にも終結が確認されなければなりません。その意味で、この宣言は戦後処理の重要な到達点でありました。

第二に、外交関係を回復し、対話の扉を開いたことであります。国交回復とは、単に国と国との形式を整えることではありません。対立を乗り越え、未来のために語り合う意思を確かめることにほかなりません。海を隔てて向かい合う隣国同士である日本とソ連にとって、その意義はひときわ大きかったのであります。

第三に、日本の国際社会復帰を後押ししたことであります。日ソ関係の正常化は、日本外交の選択肢を広げ、同年の国際連合加盟へとつながる環境を整えました。これは日本にとって、主権国家として世界の中で責任ある役割を果たしていくための重要な一歩でありました。

そして第四に、何より忘れてはならないのは、この宣言の背後に人間の苦しみを終わらせようとする切実な願いがあったことであります。祖父、鳩山一郎がこの交渉に託した思いは、決して抽象的な外交理念だけではなかったはずです。そこには、戦争によって引き裂かれた人々の苦しみを少しでも和らげたいという、強い人間的な願いがありました。とりわけ、終戦後なおシベリアに抑留され、祖国への帰還を果たせずにいた多くの日本人の存在は、祖父の胸に重く迫っていたに違いありません。過酷な寒さの中で長く苦難に耐えた方々を、一日も早く祖国に帰さなければならない。その思いは政治上の課題である以上に、人道上の責務であったと私は考えます。

祖父が病躯をおして訪ソした背景には、まさにそうした時間との闘いがありました。政治とは、国益を論じるだけでは足りません。苦しむ人々の現実に向き合い、その尊厳を回復する道を切り開くことこそ、本来の務めであります。日ソ共同宣言には、そのような政治の重みが刻まれているのです。（中略）

祖父が大切にした友愛の理念も、ここに重なります。友愛とは、相手を排することではなく、その尊厳を認め、違いを超えて共に生きる道を探る心であります。この精神は決して古びるものではありません。むしろ先行きの見えにくい時代であるからこそ、いっそう必要とされる価値であると私は信じております。（中略）

歴史は、過去を称えるためだけにあるのではありません。歴史は、未来への責任を自覚するためにあるのです。日ソ共同宣言が示したのは、どれほど困難な状況にあっても、隣国同士は対話の可能性を捨ててはならないということでありました。そしてその教訓は、70年を経た今日においても、少しも色あせてはおりません。

本日の集いが、１９５６年の先人たちの努力と勇気に敬意を表するとともに、日本とロシアが本来持つ隣国としての重みを、あらためて静かに見つめ直す機会となることを願ってやみません。そしてこの鳩山会館から、対話の大切さと友愛の精神を、次の世代へと丁寧に手渡していきたいと思います。**＊理事長挨拶全文及び当日の写真・詳細は友愛ＨＰに掲載されています**



参列者は、ロシアから偉業を讃えて贈られた一郎先生の銅像に献花



日ロ協会会長西村康稔代議士は、日ソ共同宣言の意義について挨拶



ロシア通である下斗米伸夫法政大学名誉教授も講演を行った



東京ガス社友村木茂氏も、日ロエネルギー関係について講演




北川翔氏（バラライカ奏者）による伝統楽器の演奏が花を添えた

友愛

題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」
発行所
公益財団法人 友 愛
〒112-0002
東京都文京区小石川
1-10-13 小石川文天ビル２階
TEL：03-5684-3188
FAX：03-5684-3186
E-Mail:you-i@yuai-love.com
http://yuai-love.com
編集人：羽中田元美
隔月１回　10日発行
会　費（4月～3月）
個人／　3,000円以上
法人／10,000円以上

## 友愛時評

▼米国の中間選挙で共和党が歴史的な大敗を喫した。テキサス州の上院議員の座を三八年ぶりに共和党から取り戻した三七歳のジェームズ・タラリコ氏には「民主党の新星」として早くも次期大統領選への出馬を望む声も出ている。▼タラリコ氏の人気の基盤には圧巻のスピーチ力がある。不法移民やムスリム、性的マイノリティの人々を標的に「文化戦争」を仕掛けるトランプ政権に対して、「分断をあおる政治は愛の政治にはかなわない」と真正面から反論する。そうした力強いフレーズの後に、沸き立つ聴衆と一体化するかのように十秒ほどの「間」をとる。▼他方で、日本の政治文化ではスピーチ力はあまり重視されてこなかった。「口舌の徒」よりも「不言実行」が尊ばれ、「言語明瞭意味不明瞭」の国会答弁が名人芸と評価される時代もあった。▼例外として、筆者の印象に残っているのは川手正一郎会長のスピーチである。最初にお聞きしたのは、二〇年前に中国での植林活動に同行して訪れた広西チワン族自治区柳州市の鹿寨小学校であった。川手会長は、校庭の子どもたちに優しく語りかけるように、戦争責任と戦後の償い、環境問題の重要性、将来世代への期待を説いていった。▼事後にスピーチの上達法を聞いたところ、川手会長は「何かあるかな、選挙の応援演説でも苦労したことないしな」と答えられた。その後、川手会長の謦咳に接する内に、愚問だったことに気づかされた。スピーチが人の心を打つのは、テクニックゆえではなく、溢れる想いが伝わるからだと。▼まだまだ多くのことを教わりたかった。合掌。（ヒゲ）

# OEJABから来日の12名 広島平和記念公園で献花
## 広島松井市長訪問―平和について学ぶ 京都で日本文化堪能
## 国会議事堂見学―森本真治参議院議員訪問 東京で豆腐料理に舌鼓

### OEJAB訪日団を迎えて

理事　西川伸起

OEJAB学生10名とOEJAB職員2名を迎えるのは2年前以来である。一言で言えば、大成功の交流であった。延べ13名の友愛ユニオンの若者が積極的に、東京、広島、京都で昼、夜問わずアテンドして、付き添い案内するだけでなく、語り、もてなし、楽しませ、連れ出し、交流を深めるとともに、一人ひとりに目配り、配慮し、健康にも気遣い、素晴らしいホスピタリティを示していた。また、多くの評議員、理事の皆さんにもサポートいただいた。OEJAB職員の部長さん2名は若者の教育プログラムの責任者や看護教育の責任者で、オーストリアで、友愛からの学生受け入れ現場にも立ち会っていて、その時の様子を伺えたのも興味深かった。

また、OEJABの組織体としてのマネジメントについて両部長と意見交換できたのも、友愛とOEJABの相互理解の深まりに大いに資するところがあった。（以前OEJABのモニカCEOと話したところによれば、部長クラスを日本に送るのは、相互の組織の関係性をトップ間のみでなく、多層化したいという意図があるとのことだった）オーストリアからの来日者のみならず、友愛側の参加者にとっても、様々な気づきを得る日々であった。

意外感を持って受け止めたことを書き留めておきたい。彼らの気に入り度や関心が、事前想定以上に高いものとして・お好み焼き、竹林、海岸、茶道体験。また、広島について（高校時に学校教育もあり、ウィーンには被爆石のモニュメントもある）知っていると彼ら自身は思っていた中で、いざ現地に行くと、感情に訴える強い衝撃を受けたということを複数の参加者が語っていた。一方、日本の被爆教育が小学生等若年者に偏っていることに、理解度や効果に疑問を持っていたのも印象的であった。

友愛財団の目的は定款3条に、「前文の理念に基づき、自立と共生の友愛の理念のもとに、国内外の青年や社会人の交流を深め友愛の理念を次世代に継承、発展させる人材を育成し、国際相互理解を深めもって世界平和に資することを目的とする。」としており、深まる交流により、まさに目的を体現する活動が今回行われたと言えよう。

多くのユニオンボランティアの、献身的な参画と若いパワーがあってこその充実した、彩りのあるプログラムとなった。一方で、それがなければ、単なる日本文化の観光旅行になりかねない恐れも孕んでおり、ユニオン各自が仕事や学業を抱える中、綱渡りの運営になりかねない危うさも抱えているように思えた。

今回の交流が大変実り多いものであったが故に、逆に持続的・安定的な参画・運営が可能となる体制整備をどう構築するかは年配者の役割であることを今回痛感するとともに、悩ましい宿題を突き付けられたようにも感じている。

**＊詳細・写真などHPに掲載**


平和記念資料館を見学した後、平和記念公園の慰霊碑に全員で献花をした。原爆の悲惨さを知った戦争の傷跡をもつ国の若者達は、敬虔な思いで花を捧げ祈りを捧げた。次代に繋がる平和への思い


松井広島市長と、OEJABのサブリナさんは、平和の大切だを互いに語りあい、有意義な一時を


広島市松井一貫市長はお忙しい時間を割いて面談の機会を。平和の伝道者としての活躍は尽きない


森本真治参議院議員のご配慮で、議員食堂で食事、議員を囲んで平和の取り組みについてお話を


国会議事堂（参議院）を見学。重厚な造りに全員が驚嘆していた。若い衛視の方が熱心に案内を


広島では厳島神社を見学。若者達は奥の院である山頂の御山神社まで駆け上っていた


友愛ユニオンメンバーの豊田万葉さんは広島在住。幼い頃から学んだ、平和についての講義を実施


着物（和服）を着てみたいとの要望が強く、京都市内でレンタルを。早速清水寺に繰り出して記念撮影


京都で平等院を見学。左右対称に造られた美しい建物に見入っていた。早朝の御利益で、人が少ない


鳩山紀一郎理事も参加。若者の交流に未来を感じますと挨拶。にこやかに、流暢な英語で


鳩山由紀夫理事長も出席。歓迎夕食会。代表のサブリナさんとネナドさんからお土産をいただいた


今回はアテンドで大活躍。戸澤教授（右端）は、東北大学特製の日本酒をプレゼント


友愛が用意したおもてなしの料理は、豆腐のフルコース。全員であれこれと楽しみながら、和やかに

## 2026年度「友愛小論文コンテスト」

# 韓国・国民大学校にて開催

### ―日韓の若者が「10年後、どのような社会でありたいか」を語り合う―

### ―友愛青年代表も、それぞれの「私にとって友愛とは」を発表―

**訪韓をおえて＝総括**

理事　攪上哲夫

**記念の日に招かれて**

10月26日(月)、鳩山由紀夫理事長を団長とする友愛訪韓団は、理事、評議員及び友愛青年代表（友愛ユニオン）6名と共に、韓国・ソウルにある国民大学校を訪問した。鳩山由紀夫理事長による「友愛の理念と東アジア共同体」と題した講演会が同校講堂で開催され、約200名が聴講した。また、日韓の若者での意見交換会が行われた。

今回の訪韓は「友愛小論文コンテスト」の開催と併せて国民大学校の開校80周年及び同校東アジア国際学部の開設記念式典に参加するためで、忙しい行程ではあったが、有意義な訪韓となった。




歓待ぶりは端々に現れている。会場までの広場には大きな案内表示も。鳩山理事長夫妻は、今回の実施にご尽力いただいた李元徳教授（左端）と、東アジア国際学部日本学の崔喜植教授（右端）と一緒に記念撮影

友愛青年代表は、事前に3回の勉強会を重ねてきた。今回の交流に向けて、自身の「私にとって友愛とは」を発表する機会もあった。

**日韓青年交流の話題**

韓国の青年との意見交換会では、「10年後、どのような社会でありたいか」をメインテーマに掲げ、4つのグループに分かれて議論を行った。グループ別のテーマは、「多文化共生」「若者の政治参加」「新しい技術の受け入れ―AI」「就活・学歴社会」。午前・午後にわたる約4時間、日韓両国の現状や課題を出し合いながら、10年後に目指すべき社会の姿について語り合った。




講演会場の舞台には、大きな鳩山理事長の写真が用意されていた。同じポーズをとって見せ大好評



記念講演の会場には200名を越す学生があつまった。熱心に鳩山理事長の言葉に聞き入っていた

**次代に繋ぐ意義**

「友愛小論文コンテスト」は、「私にとって友愛とは」を主題に小論文を執筆し、審査・表彰する事業である。しかし、今回の取り組みを通して改めて感じたのは、小論文を書くことや優秀作品を選ぶことだけが、この事業の目的ではないということである。国籍や文化、歴史的背景の異なる若者たちが、互いの考えに耳を傾け、率直に意見を交わし、共に未来を考える場をつくることもまた、友愛の理念を実践する重要な社会貢献活動である。

日韓両国の若者たちが、今回の出会いと対話を一つの契機として、相互理解と相互尊重を深め、東アジアの平和と安定に寄与していくことを願いつつ、私たちは国民大学校を後にした。

**グループ別発表**

各グループの纏めた意見をご紹介しよう。

「多文化共生」グループ／日韓両国ともに少子高齢化が進む中、多文化社会への移行は避けられないとの認識を共有した。一方で、外国人に対する偏見や不安、恐怖心が生まれるという課題も指摘された。こうした問題を解決するためには、友愛の精神を基盤として、互いの違いを認め合い、社会的な合意形成を図っていく必要があるとの考えが示された。



交流会に参加したメンバーが揃って記念撮影。実現に尽力された戸澤教授（前列左端）も笑顔で

「若者の政治参加」グループ／日韓両国における若者の政治参加の現状を確認した。その上で、SNSが政治意識に及ぼす影響、政治や政策への無関心、世代・男女・地域間の分断などが課題として挙げられた。その解決に向けて、次の世代のために若者自身が主体的に政治に参加すること、また、自国の問題にとどまらず、東アジアという広い視点を持って課題解決に取り組むことの必要性が語られた。

「新しい技術の受け入れ―AI」グループ／日韓両国におけるAIの受け止め方の違いを確認した。AIの普及がこれからの社会に必要であることを認めつつも、AIが人間の判断に取って代わるのではなく、人間の判断を支える存在となる社会を目指すべきだとの結論に至った。

「就活・学歴社会」グループで／日韓両国の就職活動の現状や問題点を出し合い、議論を深めた。就職活動と学業のどちらを優先すべきなのか、また、本来あるべき大学教育とはどのようなものなのかなど、若者自身の将来に直結する課題について意見が交わされた。学生時代に力を入れる「ガクチカ」の事例を提起した。



交流会を前に、皆さんの活発な意見交換を期待しますと挨拶。攪上哲夫理事。若者への熱いエールを

日韓の青年に共通する問題、それぞれの国の特徴的な問題、闊達に意見を交わし、それぞれの方法でまとめ上げた青年代表、国民大学校の参加者全員に拍手を贈りたい。

**友愛訪韓団メンバー**

**友愛役員（順不同）**

鳩山由紀夫理事長・戸澤英典東北大学教授・芳賀大輔常務理事・攪上哲夫理事・西川伸起理事・井田安信理事（事務局長）・後藤大智理事

**青年代表（順不同）**

藤田脩椰さん（社会人）・中野健太さん（千葉大学4年）・竹本海月さん（九州大学4年）・小笠原真央さん（同志社大学3年）・溝田若葉さん（大阪大学4年）・舟田光里（京都大学5回生）

**＊今号に掲載（四面）分及びそれ以外の青年代表の発表は、友愛HPに全員の意見を掲載しております。**



参加の学生は、日本語学科専攻。流暢な日本語で、意見を述べる。日韓の明るい未来の一こま



日韓の若者が、真剣に話し合い、意見を纏める。次代への期待が高まり、確信へつながる



鳩山理事長が以前訪れ、祈りを捧げた西大門刑務所を見学。日韓の歴史を伝える要とも言える場所だ



鳩山由紀夫理事長は、韓国でも大人気。学生が次々と一緒に写真をと。笑顔で応えてハートマークを

## 私にとって友愛とは
### 青年代表のスピーチ紹介

## 理解を諦めない

藤田脩椰／社会人

さて、今回はみなさんに、わたしにとっての友愛はなにか、お話ししたいと思います。

友愛、という言葉はよく、相互理解、相互尊重、相互扶助の3つの言葉で説明されます。

3つの言葉の全てに「相互」の語がつくことから、友愛とはまず、自分とは違う誰かとの関わり方を考えるにあたり重要だと考えています。

その上でわたしにとっての友愛とは、「つながりを断ち切らないこと」です。

こう考えるに至ったきっかけは、幼馴染との関係にあります。わたしは6年前、20年近い付き合いの古い友達とささいなケンカをしました。当時のわたしはその子の言動が全く理解できず、2，3年あまり連絡を取らない期間が続きました。しかしその後、ふとした拍子に再会し話をしてみると、当時理解できなかった言動も、なんとなく理解できるようになりました。それ以来その子とは、以前より深く付き合える仲になりました。

このお話からお伝えしたいのが、理解できないまでも「理解を諦めなくてよかった」ということです。

相手を「理解できない人だ」と判断し、関係を断ち切ることは、ある意味簡単です。一方で、理解できない人やことと、理解できないまま関係を持ち続けることは非常に根気が要りますし、難しいと思います。

しかし、私は、理解できないものを、理解できないままでも受け止め、つながりを保ち続けることこそ、本当に価値のあることだと考えています。


友人との体験を基に自らの考える友愛とはをスピーチ　藤田脩椰さん

その時すぐには理解できなくても、時間が経てば、自分の考え方、相手の考え方が変わって理解できるかもしれない。あるいは、最後まで理解できなかったとしても、互いの違いを認め合うことはできるかもしれない。

そうした可能性を信じ、相手とのつながりを手放さないこと。それが、私にとっての友愛です。

……

## 背景の違いを超えて

竹本海月／九州大学4年

皆さん、こんにちは。竹本海月と申します。福岡県の九州大学で、法律と英語を合わせて学んでいます。

私はこれまで、韓国や中国をはじめ、アジア、オセアニア、中東など、15カ国を旅してきました。また、いくつかの国際交流プログラムにも参加し、様々な国の人々と出会い、その人々の言語や宗教、文化、習慣、価値観に触れてきました。

そうした経験を通して考えた、私にとっての友愛とは、異なる背景を持った人々が、違いを超えて互いを理解しながら学び合うことです。そして、自分とは異なる考え方や生き方に触れることで、自分自身の価値観を広げ、今まで知らなかった世界に踏み出し、共に成長していくことだと思います。

私がこれまで、初めての国を訪れるときには、言語や宗教などの違いから、現地の人々に受け入れてもらえるのか不安に感じることもありました。しかし、実際に交流してみると、違いがあっても心が通じ合う瞬間が多くありました。

私たちは、ときに、異なる文化や価値観への偏見や恐怖、過去の歴史や先入観だけで相手を判断し、距離を置いてしまうことがありますが、それはとてももったいないことだと思います。過去から学ぶことは大切ですが、目の前にいる一人ひとりと向き合うことでこそ、これまで知らなかった相手の魅力や新しい世界を発見することができます。

もちろん、国際交流の中では、理解し合うことが難しいことや、考え方の違いから意見が食い違うこともあります。それでも、違いがあるからといって、すぐに相手を否定したり拒否したりするのではなく、まずは相手の考えを知ろうとすること、そして自分の考えも伝えながら互いに歩み寄ろうとすることが重要です。そうした姿勢が、新たな学びや信頼関係、そして友愛に繋がっていくのではないでしょうか。

これまでの国際交流を通じて、私は多くの友人を得ただけでなく、自分とは異なる世界を知り、成長してきました。違いは、私たちを分断するものではなく、互いを理解し、より深く結びつけるきっかけになると私は信じています。

これからも一つ一つの出会いを大切にし、国境を越えて互いに学び支え合いながら、友愛の輪を広げていきたいと思います。


先入観を捨て新しい魅力を発見できる。それが友愛ですとスピーチ　竹本海月さん

## 第49回理事会開催
## 順調な事業実施が報告さる

9月18日（金）18：00より、友愛サロンにおいて、第49回理事会が開催された。今回決議事項はなく、通常通り各事業が滞りなく実施されていることが、担当理事より報告された。

**出席理事・監事**

鳩山由紀夫理事長・芳賀大輔常務理事・谷藤悦史理事・攪上哲夫理事・西川伸起理事・小林正枝理事・鳩山紀一郎理事・井田安信理事・南埜幸信理事・（Ｗｅｂ参加）・後藤大智理事（Ｗｅｂ参加）・海方　亨監事

本理事会は、ＷＥＢ会議システムを併用して開催し、出席者相互間において意見表明が可能な状態であることを確認したうえで議事に入った。出席者が定数に達しており、成立を承認した。

**理事長挨拶**

ＯＥＪＡＢ受入事業は、多くの役員の方々やユニオンの皆さんにご協力いただき、成功裡に終わりました。ご協力にお礼申し上げます。

会は、予定通り順調に進行し、午後8時に終了した。

## 訃報

当財団の前常務理事川手正一郎氏が、去る10月30日、ご逝去されました。享年94歳

川手正一郎氏は1952年に鳩山一郎先生の門下生となり、翌53年4月の友愛結成大会では、第一号会員として参加、以来70余年の長きに亘り、「友愛（現公益財団法人友愛）」発展のために尽力されました。音羽三羽烏と呼ばれた故鶴巻克雄氏、故奥田吉郎氏と共に友愛の理念を広めるため1954年から全国各地を行脚し、友愛を説いて廻りました。また、友愛の行った「中国植林活動」には、2001年（第1次訪中）から2019年（第31次訪中）に参加され、友愛の理念のもと各地での交流を深めてこられました。その功績が認められ、2017年には中国政府より「中国政府友誼賞」（国家最高栄誉賞）を授与されました。

関係著書：『友愛不孤 必有隣』『友愛 移動文化映画班 日誌』『友愛雑感』『友愛理解のために』

長年にわたる多大なご功績に深く感謝申し上げるとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



## 2026年度年会費納入のお願い

＊今回の機関紙には年会費の振り込み用紙を同封しております。これは2026年度分の振込用紙で、現在入金の確認ができない方にお届けしております。公益財団法人友愛は皆さまからの会費（寄付）で運営されています。ご協力をお願い申し上げます。
　誤って封入された場合はご容赦ください。
＊友愛への会費（寄付）は、税額控除の申請に加えていただくことができます。
＊ご不明な点は事務局までお問い合せください。

## ── お知らせ ──

今号に掲載の記事のうち、紙面の都合で掲載できなかった以下の分に関しては、友愛ＨＰに詳細を掲載しました。

一面：鳩山理事長挨拶全文・バラライカ奏者北川翔氏プロフィール・主催団体詳細など

二面：ＯＥＪＡＢより来日のメンバー紹介・アテンドに参加協力した友愛ユニオンメンバー氏名他

三面：青年代表団の「私にとって友愛とは」全員分

https://yuai-love.com



◆川手さんが逝去された。言葉にならない喪失感と無念さに襲われる。もう一度あの「元気、やる気、本気」をお聞きしたかった。理事会で、中国で、思い出は尽きない。いつまでも見守ってくださっていると思っていた、甘えが悔やまれる。三羽ガラスが再会して話をしているだろう。合掌（も）